

# 赤穂総合学科新校施設整備事業基本計画策定支援業務委託プロポーザル

## 審査講評

### 1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する6名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会（以下「委員会」という。）により、実施要領を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査した。

### 2 選定結果

委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	畝森・teco 設計共同体 代表構成員 (株)畝森泰行建築設計事務所 構成員 teco(株)
候補者（次点）	(株)SALHAUS
準候補者（次々点）	該当なし

### 3 審査経過

#### (1) 第1回審査委員会

日程： 令和5年6月1日（木）

場所： オンライン会議

内容： 委員長の選出、募集要領における参加資格要件・実施要領等の協議

#### (2) 第2回審査委員会

日程： 令和5年6月6日（火）

場所： オンライン会議

内容： 実施要領等・審査方法等の協議

### (3) 第3回審査委員会（一次審査）

日程： 令和5年9月24日（日）

場所： 都道府県会館（東京都千代田区）

概要： 二次審査対象者の選定等

最初に、提案書等の提出のあった11者について、参加資格を有すること及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格基準に抵触していないこと、更には委員への事前説明その他接触などがなく留意事項における禁止事項に抵触していないことを確認した。

次に、審査の第一段階として提案書等をもとに各委員が5票程度ずつ予備投票を行い、二次審査対象者の選定に向けた議論の対象者を選定した。【表1】

第二段階として、第一段階における予備投票の結果、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する印象・専門的知見からの講評を交えた意見交換を行い、二次審査対象者の選定に向けた投票対象者を6者選定した。

第三段階として、第二段階で選定した6者について各委員が3票ずつ投票し、最終段階として、第三段階における投票の結果、投票数の少ない者から順番に提案内容等について議論し、二次審査対象者として4者を選定した。【表2】

【表1】一次審査 予備投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
5票	2者	7※、8※
4票	1者	9※
3票	3者	1、2※、10※
2票	2者	3、4※
1票	1者	6
0票	2者	5、11
計	11者	

注1) ※は第三段階へ進んだ者 注2) 審査 No.は提出書類受付順

【表2】一次審査 投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	1者	7※
5票	1者	2※
4票	1者	9※
3票	—	
2票	1者	8※
1票	1者	10
0票	1者	4
計	6者	

注3) ※は二次審査対象者

#### (4) 第4回審査委員会（二次審査）

日程： 令和5年11月12日（日）

場所： 赤穂高等学校（長野県駒ヶ根市）

概要： 実施体制及び提案書について、一者当たり 15 分の公開プレゼンテーションを 4 者続けて行った。続けて 4 者一斉に 75 分の公開ヒアリングを行った。

ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開にて次のとおり審議を行った。各委員が専門的知見に基づき、NSD プロジェクトの理念や学びに対する理解、設計の技術力などによる総合的に評価し、各者の作り出すバリューや課題などについて議論した。その上で、各委員が最大 2 票の投票を行った。【表 3】

次いで、投票結果を踏まえ、最適候補者等の選定について議論したところ、投票結果に異論はなく、委員会の総意として、最適候補者に畝森・teco 設計共同体を選定した。以降、候補者（次点）に(株)SALHAUS を選定した。準候補者（次々点）は該当なしとした。

【表 3】二次審査 投票結果

提案者名（発表順）		投票数
1	(株)SALHAUS	4
2	畝森・teco 設計共同体	6
3	翔設計・flat class architects 共同企業体	1
4	(有)大建 met	1

## 4 講評

### (1) 全体講評

自然豊かな伊那谷に位置し、中央アルプスや南アルプスの山並みが一望できる風光明媚な地に存する赤穂高校を、普通科・商業科から総合学科へ転換する本事業に対して提出された11者の提案は、どれも熟慮された提案であった。NSDの理念に共鳴し、多くの時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いた方々に感謝の意を表したい。

本事業は、「地域に根差し、開かれ、ともに歩む学びの場（コミュニティスクール）」という特徴的な学校を目指すとともに、生徒が、地域の教育人材や資源を積極的に活用しながら地域全体を学びのフィールドとし、未来を切り拓く力やそれぞれの夢に挑戦する力を育み、地域と共にみんなでわくわくしながら学びに向きあい、自分の好きなことをみつけ、熱中できるような生徒像を描く赤穂総合学科新校の学校づくりの一環である。また、本プロポーザルにより選ばれた設計者と、長野県が目指す「新たな学び」を実現する学習空間、新校が目指す「地域とともに未来をひらく学びの拠点」を実現する学習空間となるよう、学びと空間の環境整備を基本計画から一体となって実現する事業である。

二次審査に残った4者の提案は、新校が目指す学びの実現や地域における学校の在り方といった課題に対して真摯に向き合った優れた提案であった。それらからは、学校施設の整備という外形を超えて、地域づくりの視点から「教育と建築の一体改革」を実現しなければいけないという気概が感じられた。最終的には、「地域に根差し、開かれ、ともに歩む学びの場（コミュニティスクール）」を目指すにあたり、地域と繋がる「まちミチ」と移動時間を学びに変える「まなびミチ」の2つのミチの間に設けられた校舎棟と中庭の連なりによって魅力的な学びの空間を作り出すとともに、既存校舎の活用を積極的に図るなど意欲的な提案を行った畝森・teco設計共同体を最適候補者に選定した。

ここからが本当のスタートである。最適候補者には、学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから素晴らしい学校ができたと言え、胸をはって言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

### (2) 個別講評（二次審査対象者）

#### 畝森・teco設計共同体《最適候補者》

まちミチ、まなびミチの2つのミチの間に設けられた校舎棟と中庭の連坦によって魅力的な学びの空間を作り出すとともに、既存校舎の活用を積極的に図るなど意欲的な提案であった。

その一方で、全体的に新たに構築する床の設定が大規模であること、新築部分が既存棟と一体的構成のために既存棟が躯体年限を迎えた時に不具合が生じる可能性があるなど、いくつかの懸念が提示された。これに対し、インタビューの中で、まちミチの半屋外化や、まなびミチの空間を学習空間として整理して魅力化する可能性について提示するなど、本事業が設計者に求める実務能力と柔軟な対応性の一端が示され、これらを総合的に評価し、最適候補者とした。

(株)SALHAUS 《候補者（次点）》

メディアセンターを中心に据えた明快な配置計画であり、新棟・既存棟を風車型に連結することにより、既存施設と調和のとれた提案であった。敷地条件に対するアプローチも明快であり、分析力・提案力の高さが評価された。また、NSD への理解力、プレゼンテーションやヒアリングでの受け答えも的確であり、チームとしての総合力も高い評価がされた。

一方で、普通教室の周辺に魅力的な仕掛けが少ないこと、中心的空間の設定が更なる ICT の進化にどこまで対応できる可能性があるのか、などが議論となり、惜しくも次点に留まることになった。

(以下、発表順)

翔設計・flat class architects 共同企業体

ラーニングサークル、ウェルネスサークルを中心に展開する魅力的な提案であり、既存校舎に対する増築規模・方法も実現性が高く、新校舎建設時の仮設工事への配慮も検討された優れた提案であった。また、インタビューにおける落ち着いた受け答えからは、若い設計者のプロジェクトに対する意欲と今後の可能性が感じられた。

一方で、一階に相当多くの機能を集約することの是非、総合学科の高学年の生徒の専攻授業や生活スタイルの検討及び波及効果を大きくする 1 年生教室の配置など、時間と全体構成の検討等に懸念が示され、高い評価を得ることはできなかった。

(有)大建 met

コンパクトな校舎を中心とした配置計画で、教育の内容についてもよく考えられ、新校が目指す学校像を丁寧に読み込むとともに、新校舎建設時における仮設工事への配慮も検討された細やかな提案であった。また、基本計画策定プロセスにおける地域との関わりが具体的であり、インタビューの受け答えからも柔軟性を持つチームであると感じられた。

一方で、キャンパスストリートに接する改築施設の配置が将来建替時のゆとりを少なくしていること、構造面の自由度が少ないこと、一階空間の検討が他の部分に比べてやや物足りないことといった懸念が示され、高い評価を得ることはできなかった。

## 5 プロポーザル概要

### (1) 経過

令和5年6月1日	第1回審査委員会	
令和5年6月6日	第2回審査委員会	
令和5年7月28日	公告	
令和5年8月3日	現地説明会	
令和5年8月10日	参加表明書の提出期限	12者提出
令和5年9月5日	一次審査書類の提出期限	11者提出
令和5年9月24日	第3回審査委員会 (一次審査)	二次審査対象者の選定(4者)
令和5年9月28日	一次審査結果通知	
令和5年10月23日	二次審査書類の提出期限	4者提出
令和5年11月12日	第4回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

### (2) 審査委員会等構成

審査委員会(五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	建築・教育
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	建築
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	建築
委員	武者 忠彦	立教大学・教授	地域

アドバイザー

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学・教授	都市・建築学